

二〇二一年度

「国語」問題

注意事項

- 1 問題および解答用紙は、試験開始の合図があるまで開かないでください。
- 2 解答はすべて解答用紙の所定の欄に楷書で記入してください。
- 3 受験番号および氏名は解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 問題は1ページから15ページまでです。

〔問題一〕 1～6の文中の——線部(a)～(h)について、漢字はひらがな

で読み方を示し、カタカナは漢字に改めなさい。

1 われらは平和を維持し、センセイと隷従、^(a) 圧迫と偏狭を地上から永遠にジヨキヨしよう^(b)と努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

(日本国憲法 前文による)

2 私は元来、栄養学というものには、あまり信用をおいていなかった。理由は、無闇とカロリー、カロリーというからである。人間は機関車とちがうという、人道主義的誇りからも、どうしてもシヨウフク出来なかつたのである。それで新婚当時、細君が女学校と料理の講習会とで教わったばかりの知識をふり廻して「松茸^(c)なんて、栄養になりませんよ。カロリーがほとんど無いんですから」と主張しても、私は平気で松茸を喰っていた。

(中谷宇吉郎「老齡学」による)

3 たしか寺田寅彦氏の随筆に、猫のしつぽのことを書いたものがあつて、猫にあ、云うしつぽがあるのは何の用をなすのか分らない、全くあれは無用の長物^(d)のように見える、人間の体にあんな邪魔物が附いていないのは仕合せだ、と云うようなことが書いてあるのを読んだことがあるが、私はそれと反対で、自分にもああ云う便利なものがあつたならば、と思うことがしばしばである。

(谷崎潤一郎「客ざらい」による)

4 初め一概に野卑滑稽としか映らなかつた胡地の風俗が、しかし、その地の実際の風土・気候等を背景として考えてみるとけつして野卑でも不合理でもないことが、しだいに李陵^(e)のみこめてきた。厚いヒカク製の胡服でなければ朔北^(f)の冬は凌げないし、肉食でなければ胡地の寒冷に堪えるだけの精力を貯えることができない。

(中島敦「李陵」による)

5 税務署長のその晩の下宿での仕度ときたら実際科学的なもんだった。

まづ第一にひげをはさみでぢゃきぢゃき刈りとつて次にキハツ油へ木タールを少しませて茶いろな液体をつくつて顔から首すぢいっばいに手にも塗つた。鼻の横や耳の下には殊に濃く塗つたのだ。

(宮澤賢治「税務署長の冒険」による)

6 藤井聡太棋聖が、三連勝でノゾんだ第四局にも勝利し、二冠を達成した。八段昇級も同時に果たした彼のセンセキは圧倒的だ。

(新聞記事による)

〔問題二〕 次の問1、2の各設問に答えなさい。

問1 次の文章の内容と合致するものを後から二つ選び、記号で答えなさい。

(日本では) サクラ類に対する学名の属名として、ラテン文字のケラス (Cerasus) を用いている。これまでサクラ類の属名はプルナス (Prunus) を用いる場合が多かったのだが、近年ではケラススを用いられることが増えている。どのような理由で変わってきたのだろうか。もともとプルナスとはスモモ (英語だと Prune) のことであるので、サクラをプルナス属とする場合、スモモやモモ、ウメ、ウワミズザクラなども含んだ大きなグループとなり、世界では四〇〇種を超える。これを広義のサクラ属とすることができる。一方、ケラスス属は、セイヨウミザクラやヤマザクラなどだけしか含まず、一〇〇種ほどである。これを、狭義のサクラ属という。

伝統的にはサクラ類の種数が多いロシアや中国では狭義のサクラ属を用い、種数が少ない西ヨーロッパや北米では広義のサクラ属を使う例が多かった。日本では東京大学の大場秀章が一九九二年にサクラ類を狭義のサクラ属に分類する論文を発表して以来、狭義のサクラ属を用いる例が増えている。

(勝木俊雄『桜』による 作問のため本文を改めた箇所がある)

ア アメリカでサクラがプルナス属に分類されたのは、約四〇〇種ものサクラがあったからである。

イ サクラ類は国や時代により異なる属に分類されるが、一九九〇年当時の日本のサクラ類は、プルナス属に分類されていた。

ウ 狭義のサクラ属を用いるロシアや中国の方が、広義のサクラ属を用いる西欧や北米よりもサクラに関心がある。

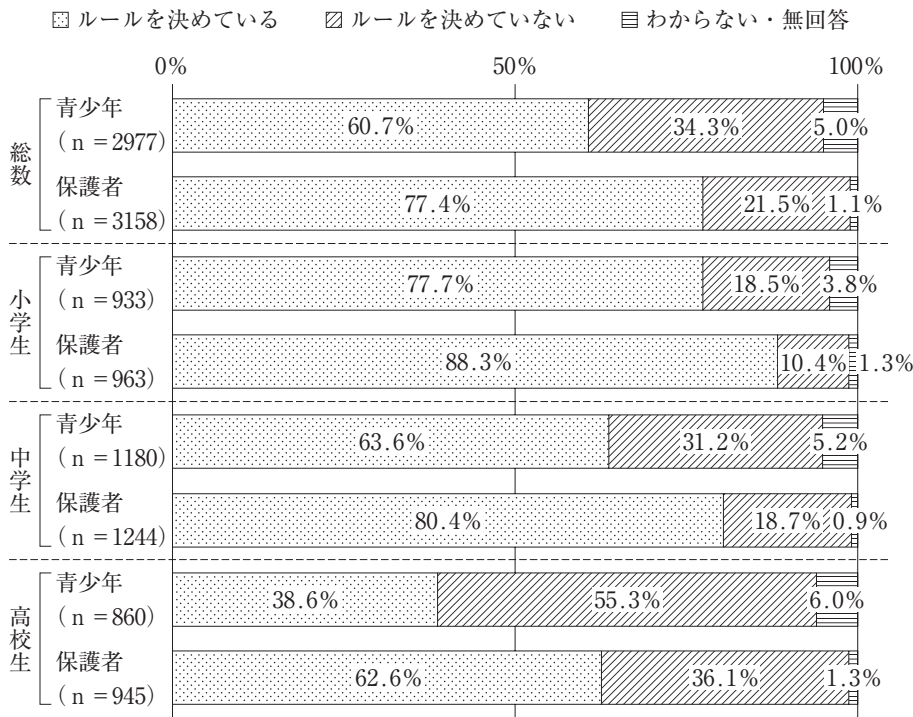
エ 日本では、伝統的に「花」といえばサクラを指し、一〇〇種にのぼるサクラ類を狭義のサクラ属に分類してきた。

オ 比較的サクラ類が多いロシアでは、スモモやウワミズザクラとは区別して、サクラ類を現在の日本と同じケラスス属に分類した。

問2 次のグラフは、インターネット利用のルールの有無に関するアンケート結果です。グラフから読み取れることとして、適当でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

い

青少年とその保護者のルールの有無に関する認識の比較（学校種別）



〔令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査〕

調査結果（速報） 令和二年三月 内閣府

ア どの学校種においても、インターネット利用のルールを決めていると認識している割合は、児童・生徒に比して、保護者の方が高い。

イ 高校生の保護者の六〇%以上が、子どものインターネット利用に関して、なんらかのルールを定めていると考えている。

ウ 中学生のおよそ三分の二が、自分の家ではインターネット利用のルールを決めていないと考えている。

エ 学校種が上がるにつれて、保護者が青少年のインターネット利用のルールをもうける率が減少している。

オ 小・中・高生の約六割が、家庭でのインターネット利用のルールを認識している。

〔問題三〕 次の文章は『勝五郎再生記聞』の一節です。本文を読んで

後の設問に答えなさい。

松村完平が物語に、大坂に声いと善くて、今様の長謡といふものを謡ひて業とする男ありき。ある日ものへ行く途にて、山伏体なる男に会へり。行き違ひながら、そなたの声のめでたきをしばし我に貸してよと言ふを、道行きぶりの戯言と思ひて、笑ひつつ唯といひて行き過ぎけるが、三日ばかりありていたはることもなきに、ひしと声かれて出でず。

されどかの異人に声を貸したることにつゆ心づかず、住吉神社は産土の神なれば、祈らむと思ひて出で行きける途にて、またかの山伏体なる人来たり会へり。先つころ我が請へることく声を貸しながら、それを忘れて、産土の神に申し祈らむとするこそ心得られね、汝かしこに祈らば、極めて我を罪し給はむ。然もあらば、我また汝にからき目を見せむものぞ。然らむよりは、しばしのほどなれば、まげて貸してよと言ふに、始めて先に声を借らむと言ひし時に、唯しつることを思ひ出して、卒に恐ろしくなりて、極めて産土の神に祈るまじと、堅くちぎりにて途より立ち帰りけり。

さて三十日ばかりありて、物へゆく途にて、またかの異人に行き逢ひけるに、その方の声は今返すべし、受け取りてよと言ふに、はや声

もとのごとくになりぬ。

かくて異人この報いをなすべしとて、呪禁の技を授けたるが、よろづの病に験ありて、後には謡うたひの業を止めて、この呪禁のみして、世をやすくおくりしといふ。

- ※1 山伏：修験道の修行をする人
- ※2 いたはることもなきに：病気になったわけでもないのに
- ※3 つゆ心づかず：少しも気づかず
- ※4 産土の神：生まれた土地の守り神
- ※5 先つころ我が請へることく：先日私がお願ひしたように
- ※6 極めて：きつと
- ※7 からき目を見せむものぞ：つらい思いをさせるのだぞ
- ※8 極めて産土の神に祈るまじ：決して産土の神には祈るまい
- ※9 呪禁：まじないをして災い・たたりをはらいきよめようとすること

問1 ——線部(1)「唯といひて」とありますが、何を引き受けたのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア めでたいことばで祝福すること
- イ 自分のすばらしい声を貸すこと
- ウ 自分が得意とする長謡を教えること
- エ 山伏姿の男の技と自分の長謡の技とを交換すること
- オ 自分の代わりに神社で長謡を謡う機会を与えること

問2 ——線部(2)「祈らむ」とありますが、何を祈ろうとしたのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 山伏姿の男に再会すること
- イ 生まれた子供が健康に育つこと
- ウ 自分の声を元に戻してもらうこと
- エ 奉納する長謡を見事に謡いきること
- オ 長謡の技術がもつと早く上達すること

問3 ——線部(3)「罪し給はむ」とありますが、I 誰(4字)が

II 誰(6字)を罰するというのですか。本文中からそれぞれ抜き出さない。

問4 本文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 長謡を生業とする男は住吉神社の祭礼に長謡を奉納すること
を快く引き受けた。
- イ 長謡を生業とする男は三十日程度声が出なくなってしまうた。
- ウ 山伏姿の男は声を借りたまま三十日程度過ぎたがとうとう異人に声を取られてしまった。
- エ 山伏姿の男はせっかく借りた美声を産土の神に取り上げられそうになった。
- オ 長謡を生業とする男は呪禁の技を用い大坂周辺の人々を病気で苦しめた。

〔問題四〕 次の文章を①～③の条件にしたがって、八十字以上百字以

内で要約しなさい。

- ① 三文で要約すること
- ② 第二文の書き出しを「しかし」、第三文の書き出しを「つまり」で始めること
(……………。しかし……………。つまり……………)。
- ③ 解答欄の一マス目から書き始め、句読点も一字に数えること

従来の文法から外れた言語表現を「誤り」だと切り捨てる人は多い。しばしば、「〜という言い方は誤った日本語ですね」「こんな使い方はしませんからね」などという声を聞く。「正しく」「美しい」ことばを使うという意識が高い人々からの声だ。だが、それらを「誤った」ことばだと簡単に見なしてしまっているのだろうか。

いったん「誤り」だととらえると、そのことばが生まれた背景や本質が見えなくなってしまう。例えばスポーツの試合で良い結果を収めたとき、最近の選手はこぞって「感謝しかない」と言う。スポーツに限らず、若者が「〇〇しかない」と謝意や喜びを表す場面が格段に多くなったような気がする。「正しい」言い方は、「感謝してもしきれない」だろう。「〇〇しかない」は、「あと十分しかない」「自分にはもう勉強しかない」等、本来追い詰められたようなニュアンスで使われる表現である。

なぜこのように謝意や喜びを伴う表現に転換されたのだろうか。

「しかない」は、確かに悲観的なニュアンスが含まれるが、一方で追い込まれたからこそ自分が選ぶのはそれしかない、だからやるぞ、という力強い覚悟も感じられる。例えば「葉で治らなければ、手術しかない」などのように、「しかない」に込められた、それを自分で選び自分で受け入れるという決意を含んだ表現として、強い意志や気持ちを伝える表現として定着したのではないだろうか。

長い歴史を経て、現代の社会は多様性が確保され、生きる上での選択肢も豊富に用意されるようになった。同時にその中で、自分の意志で選び取ることの重要性も説かれるようになり、教育においても主体性を育成することに主眼が置かれるようになった。この「〜しかない」は、若者が数ある感情表現の選択肢の中から、強い意志をもってその一つの表現を選び取ったのだという主体性をアピールする心理から創出されたという見方ができる。このように、「誤り」だとされる表現の生じた理由を考察すると、社会の様相が見えてくるのだ。

「誤った」ことばであるとして指摘される表現も、時代の流れの中で生じている言語変化の一断面である場合もある。おしなべて「誤り」だと片づけるのではなく、人々の間でそれなりに定着している言語現象には、相応の存在理由があるのだという視点を持つことを、私達は忘れてはならない。

この世界は研究対象の宝庫である。一見そんなものに注目しても仕方がないのでは、という事物を対象とした研究は世の中に数多く存在する。しかしそれらの研究から、優れた考察が生み出されているのも事実なのである。

(本文は本校で作成した)

〔問題五〕 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

1 ロック以降のイギリスおよびスコットランドの哲学の関心は、ロックが構想するような近代社会において、どうやって道徳を語りうるかということに向けられました。実際のところ、その当時（かつまた部分的には現代においても色濃く）キリスト教は人々の生活の中に残っています。しかし、何が道徳的に正しく、何が間違っているかという判断を、単に「聖書にそう書かれているから」という理由だけで説明することは、次第にできなくなってきました。「神」に頼らずにどうやって道徳を語りうるのか。アダム・スミスがその系譜に属するスコットランド学派は、「共感」という概念によって、その問題を解決しようとしたのです。

2 「共感」という概念に関しては、それなりにバラエティに富んだ議論があるのですが、ここではスミスの議論だけを見ます。⁽¹⁾ スミスにおける「共感」が他の学者とも違って特殊だったのは、共感することそれ自身を「快樂」と考えた点にありました。後の功利主義にも通じる快樂主義の立場ですが、⁽²⁾ 共感を快樂とすることでスミスは、ある種の「道徳」を導くことに成功するのです（『道徳感情論』）。

3 考えてみてください。苦しみであっても、他者の感情に共感することが快樂だとすれば、人はより多く、たくさんの人と共感しようとする

るでしょう。だとすれば人は、自らの快樂を求めて、自然に多数の共感を得られる行動をとるようになるかと予想できます。たくさんの人に認められることをすれば多く共感することができずし、共感されることにもなるはずです。そうすることで本人もより多くの快樂を得られるとスミスはいわけます。アダム・スミスによれば、そうやって人は、より多くの共感をもとめることで自然に、偏りのない「公平な観察者」の立場に立つように方向付けられます。いわゆる「道徳的な振る舞い」といわれるものは、そのように他者の広い共感を求める各人の欲求から自然に導かれるというのがスミスの議論だったのでした。このような「道徳」の機能は、実際に現代のわれわれの社会でしばしば見られるものでもありますし、スミスの話に「共感」する読者も少なくないでしょう。

4 さてしかし、このような「道徳」が、実際に望ましいかどうかについてはなお議論のありうるところです。具体的に、どのようなものが公平な観察者の立場から認められるのかを考えてみましょう。スミスの議論は、よりたくさんの人に認められるほど、たくさん人の快樂を得られるという構造を示しています。が、⁽³⁾ 具体的にどのような行為が、多くの人に認められるのかは、いい／悪いがどうやって決まるかという話をしていくわけですから、アダム・スミス自身が具体的な行為を挙げて「これがいい」といつてしまったら、その

こと自体、本当に「公平な観察者」の立場から認められるのか、あらためて議論しなければならなくなるわけですね。だから、スミスとしては、その部分を明記せず、オープンにしておくということが自分の議論の説得性を高めるためにも必要なことになっているわけです。

5 しかし、まさに内容についてはオープンであるということが、問題にもなりません。「公平な観察者」と聞いて多くの人がイメージするのは、道徳的に品行方正な立場であるかもしれません。しかし、スミスの議論で、道徳が道徳として機能するために必要なことは、単に「それが一般的であること」だけです。ですので、例えば、一時期の流行でみなその気になるようなものについても、「道徳」として機能することが十分にありうるのです。しかも、その可能性をスミス自身がきちんと指摘しているのが面白いところです。

6 つまり、何が正しいか間違っているかの基準は、スミスの議論では、それが「流行っているかどうか」でもいいといわれているのです。「みんなそう思っている」ということが、世の中の唯一の善悪の基準になるとスミスはいうのです。興味深いことに、このことは、単にスミスの理論でそういわれているという以上に、いまわれわれが生きている社会の現実の少なくともひとつを示しているのではないでしょう。

7 しかし、スミスの話が本当に面白いのはこの先です。スミスのこの

「道徳」の議論が、まさに今日われわれが知っている経済学の基礎になつていくというのが興味深い点です。しかも十分にひねりが効いていることには、この道徳論と経済学の繋がりは「みんなそうやってだまされている」という欺瞞論(6) ぎまんによって支えられているのです。「ビッグ・ウェーブ」には乗ることが「正義」だし、それが経済発展の基礎にもなっている。だけど、結局のところそれって「みんなだまされている」ということなのだけどもね、とスミスはいつているのです。これはどういうことでしょうか。

8 アダム・スミスによれば、流行に左右される善悪の基準は絶対ではありません。そもそも絶対に正しいなんてことは誰にもいえないのだとスミスはいいいます。人間というのは時々流行にだまされながら、その都度その都度、自分がよかれと思うことをするので精一杯だというわけです。「哲学者」(スミスは悪い意味で使っています)は、だまされないように流行の外に立とうとしますが、だからといって彼に「絶対に正しいこと」が分かるわけでもないだろう、と。社会における善悪が実際に「流行」で決まっているとすれば、人間にできるのはそれにだまされることではないか。むしろ、人がそうやってだまされることで、社会は実際に発展するし「道徳」も一応は成立する。人間の本性はそうしてわれわれ自身をだましつつ、世の中を発展させていくものなのだというのがスミスの議論だったので

す。そこでも、誰も真理は知りえないという「不可知論」がこの議論の前提になっていることが分かります。真理を探究する「哲学者」などいらないというわけです。

9 経済学^{※1}の原理として有名な「見えざる手」という言葉は、この欺瞞論の文脈で出てきます。各人は「自由」であり、好き勝手に振る舞いますが、それで社会がバラバラになるわけではない。人々はまさに「自由」であることで、自らの快楽を求めて流行にだまされます。それは必ずしも各人にとっていい結果をもたらすものではないものの、社会全体で見ると「神の見えざる手」が働いているかのように、道徳的規範と経済的發展を実現するとスミスはいつていたのでした。これ以上ないくらい皮肉の効いた「経済社会」⁽⁷⁾の描写を、経済学の創始者と呼ばれる人が示しているというのが面白いと思いませんか。

(荒谷大輔『資本主義に出口はあるか』より)

※1 経済学の原理として有名な「見えざる手」：「神の見えざる手」とも。人間が自由に好き勝手な経済活動を行っても、まるで神様の見えない手が働いたかのように、結果的にはバランスの取れた経済状態が実現するということ。

問1 ——線部(1)「スミスにおける「共感」とありますが、その例

として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 物語に登場する人物の勇氣ある生き方に感情移入する。

イ Twitterに投稿した自分の書き込みに「いいね！」がつく。

ウ 昼食を食べ損ねおなかをすかしていたところ、先輩に同情される。

エ 人間と腸内細菌の共生のありかたに感動する。

オ 第一志望の高校に合格した友人を我がことのように喜ぶ。

問2 ——線部(2)「共感を快樂とすることでスマイスは、ある種の「道徳」を導くことに成功するのです」とありますが、なぜ「共感を快樂とすること」で「ある種の「道徳」を導くこと」ができるのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 他者に共感し、他者から共感されること自体が快樂でもあるので、人は進んで他者に認められるようなことをしようとするから

イ 苦しみであつても、他者の感情に共感することは快樂を得られる行為なので、人は進んで他者の苦しみを引き受けようとするから

ウ 「道徳的な振る舞い」をすることが他者から共感され快樂を得られる方法なので、人は進んで「道徳的な振る舞い」をしようとするから

エ 「公平な観察者」になることは他者からの共感を得られ、その共感には快樂を伴うものなので、人は進んで他者に対して公平に接しようと心がけるようになるから

オ 自らの快樂を求めることは本来恥ずかしいことなので、その快樂が他者の共感を得られるよう、人は進んで自分が「道徳的」であるかのように行動しようとするから

問3 ——線部(3)「いい／悪いがどうやって決まるかという話をしている」とありますが、「いい／悪い」がどのように決まるかについて次のように説明しました。空欄に当てはまる語句を、本文中からそれぞれ抜き出しなさい。(記号は一字と数える。)

何がいい行いで何が悪い行いであるかという I (5字) が有効に機能するためには、 II (13字) が重要なのであり III (4字) であるか否かは必ずしも「道徳」の問題とは結びつかないのである。

問4 ——線部(4)「スミスの理論」とありますが、6段落までの

「スミスの理論」の説明として、適当でないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア スミスの話は、キリスト教に頼らずにどのようにして道徳を語りうるかという系譜の中にある。

イ スミスの話は、共感することそれ自体が快楽であると論じたところに特徴がある。

ウ スミスの話は、具体的にどのようなことがいい行為なのかを決めないと論じたところに特色がある。

エ スミスの話は、「公平な観察者」の立場など人間は目指すことができないと論じたところに面白みがある。

オ スミスの話は、机上の空論ではなく、現実世界にも一定程度当てはまるところに興味深さがある。

問5 ——線部(5)「道徳論と経済学の繋がり」とありますが、その

「繋がり」を次のように説明しました。空欄に当てはまる語句を、本文中からそれぞれ抜き出しなさい。(記号は一字と数える。)

経済学では、みんなもやっているからという理由で、多くの人が同じ行動を取り、そのことがI (4字)の土台を作るというように考えられている。それと同様、スミスの道徳論においても、II (6字)でみんなが正しいと思っているようなものであったとしても、それは「道徳」として成り立つのである。どちらも結局のところIIにIII (12字)という点において一致しているのである。

問6 ——線部(6)「欺瞞論によって支えられている」とありますが、

スマスは「欺瞞論」において何を主張しようとしているのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 善悪の基準は流行に左右されるため、絶対的なものではありません
えないということ

イ 人間は流行にだまされながら、自分がよかれと思うことをするので精一杯であるということ

ウ 「哲学者」は流行にだまされないようにしているが、「哲学者」に「絶対に正しいこと」は分からないということ

エ 人間の本性はわれわれ自身をだましつつ、世の中を發展させていくものなのだということ

オ 「不可知論」は、誰も真理を知りうることはできないと定義づけられるということ

問7 ——線部(7)「皮肉の効いた「経済社会」とありますが、それ

はどのような「社会」ですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 各人が好き勝手に振る舞うことによって、結果的に人々を縛り付ける道徳的規範ができあがってしまう社会

イ 一見「自由」に行動しているように思えるものの、実際のところ人々が神の意思によって動かされてしまっている社会

ウ 人々が「自由」であることで流行にだまされてしまうにもかかわらず、その行動が道徳的規範や経済的発展の実現に繋がっていく社会

エ 道徳的規範は「神」に頼らず人によって実現できるはずであつたにもかかわらず、結局のところ「神の見えざる手」によって道徳的規範が実現されてしまう社会

オ 道徳的規範や経済的発展は、各人にとって必ずしもいい結果をもたらすわけではないのにもかかわらず、全体的にみると規範や発展を求める方向へ動いていく社会

問8 次のア～オの選択肢のうち、本文の内容と合致しないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他者の感情に共感すること自体が快樂なのは、キリスト教が人々の生活の中に色濃く残っているためである。

イ 人は他者の感情に共感しようとするだけでなく、他者からの共感を得るために行動しようとする。

ウ スミスが唱える「公平な観察者」とは、品行方正な人のことではなく、多くの共感を求め、偏りのないものの方を見方をしようとする人物のことである。

エ どのような行動が人間にとって具体的に道徳的であるのかをスミスが語らないのは、道徳的規範がどのようにして形成されるのかを議論しているからである。

オ スミスの道徳論は、人間を流行にだまされる存在として捉えているが、その前提にあるのは絶対に正しいことなど誰にも分からないという「不可知論」である。

(以下余白)

